

予報期間 1月16日から1月22日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 18日は、冬型の気圧配置が緩み、19日は低気圧が日本海を進む。
- 20日は、低気圧が千島近海を東北東に進み、日本付近は冬型の気圧配置になる。
- 21日から22日は、強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まる。

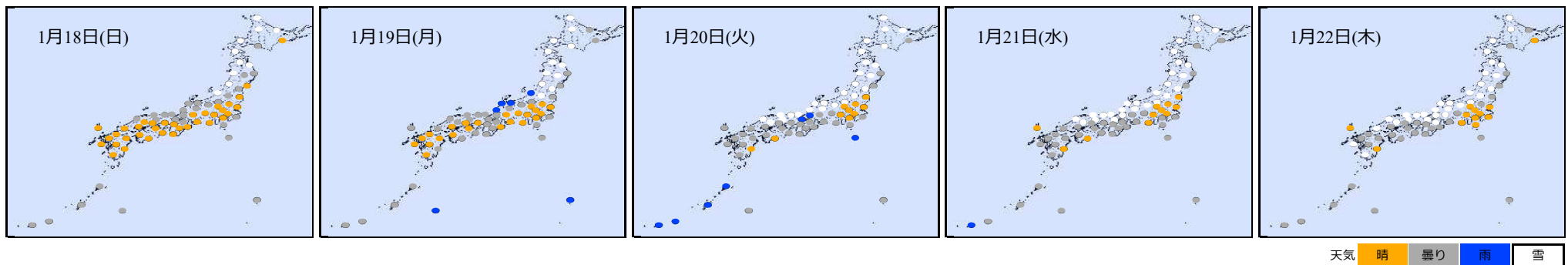
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日は、日本付近は冬型の気圧配置となる。北日本付近では、気圧の傾きが急となるため荒れた天気となり、冬型の気圧配置の強まりの程度等によっては大荒れとなるおそれがある。
- 21日から22日にかけて、強い寒気が南下するため、北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

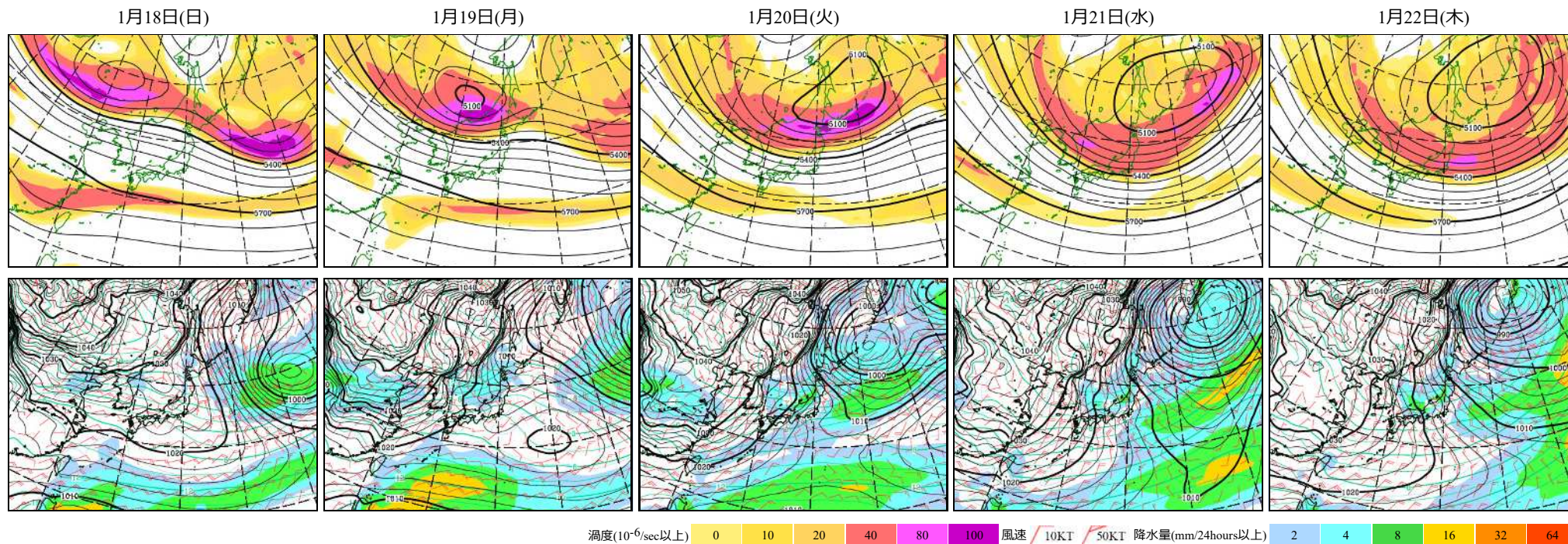
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

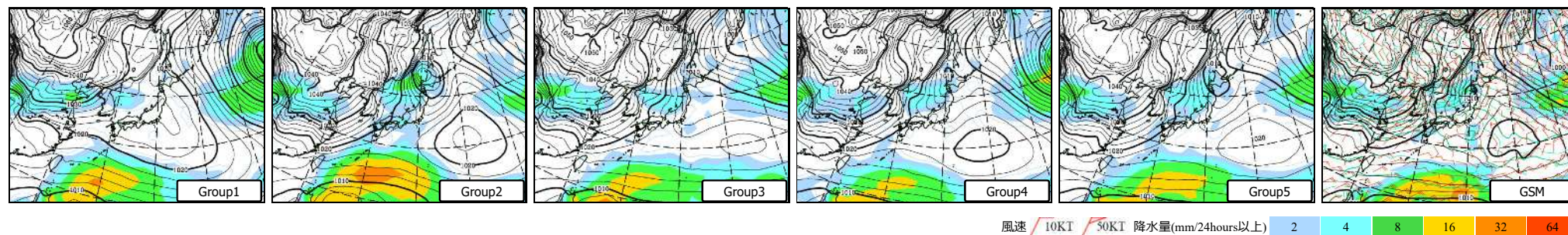


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月19日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはないが、21日頃に日本付近に進むトラフが深くなった。地上の気圧配置の予想は、大きな初期値変わりはない。
- 21日に日本付近に進むトラフが深くなったモデルが多く、昨日資料よりモデル間の差は小さくなった。
- 19日は、GSMとECMは日本海に、NCEPは関東の南東付近に低気圧を予想する。ENSは、日本海に低気圧を予想するメンバーが多く、やや発達するメンバーもあるが、関東沖に低気圧を予想するメンバーも含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。